

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 7月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2870700610
法人名	有限会社日本健康管理システム
事業所名	グループホームひまわり
所在地	兵庫県神戸市須磨区中島町2-5-10 (電話) 078-739-4959

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	〒666-0016 兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2007年 4月29日 評価確定日 2007年7月17日

【情報提供票より】 平成19年4月10日

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 7月 13日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10人 常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1200 円	

### (4) 利用者の概要( 4月10日)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村海浜病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山陽電鉄東須磨駅から徒歩6分の住宅地にある民家を改造した家庭的な雰囲気の事業所である。法人は認知症の方が経済的に負担が少なく利用できるよう民家や保養所等を活用してグループホームを運営している。少人数の良さを活かして一人ひとりの利用者が役割を持って職員と共に、ゆっくり、一緒に、楽しく地域と親密化を図りつつ暮らしている。利用者の表情がいきいきしている。医療連携体制により看護師と24時間連携体制が整っている。協力医と看取り介護の援助対策も検討している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流課題については、散歩の途中や職員が出勤時に地域の人々に意識的に声かけしたり、行事の参加の案内を配ったり、利用者と職員と一緒に地域の行事に参加したりして、努力している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で全項目の自己評価は時間の関係で行えなかったが、管理者と職員が分担して取り組んだ。文章で表現できない点もあったし、取り組みの不十分なことにも気付いた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所からの報告が主で、現段階ではグループホームの理解に留まっている。会議に参加した地域住民から自分の家族の介護相談があった。今回の外部評価を受けて、今後の取り組みについて話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族等へ来訪時に利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理等を報告し、家族等からの意見や要望を聞くようにしている。来訪しない家族等には、便りを出して健康状態、金銭管理の報告をしている。苦情や不満が出やすいよう、意見箱を設置し、機会がある度に声かけをしているが特に意見は出ていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は開設当初から自治会に入り、地域との連携の働きかけしている。昨年からは始まった運営推進会議には地域住民も参加している。また積極的に利用者や地域との交流を図る工夫をし、地域の人々に、利用者一人ひとりと顔見知りになってもらえるような関係づくりを望んでいる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者一人ひとりの自尊心を大切に、個々の持つ能力を引き出し、ゆっくり、一緒に、楽しくそれぞれに合った生活の支援をする。」という理念であるが地域住民に、グループホームの利用者が個々に住民として受け入れられるような関係作りを目指している。		・グループホームは平成13年オープンし6年経ち、地域にとけこんでいる。地域密着型サービスの役割を考え、事業所の目指す利用者一人ひとりが地域に認識してもらえ、関係作りを理念に加えて、地域住民との交流等に取り組んでいくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者と職員で理念を意識して日々の話し合いをしている。利用者のペースに合わせて、一緒に楽しみ、調理、洗濯、作業等を共に行う等ケア全体に理念を反映させている。		・職員は地域住民に積極的に挨拶や声かけして、地域にとけこむ努力をしている。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・幼稚園の行事や、地藏盆等に利用者は職員と一緒に参加している。散歩の途中近所の人がかけてくれ、家に入ってお茶をご馳走になることもある。事業所が開くクリスマスコンサートに近所の人に参加するなど、地域との交流が進んでいる。自治会には開設当初から入っているが活動には参加できていない。		・事業所は自治会の活動に参加したいと希望しているが、自治会は広域で活動があまり活発ではない。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は管理者と職員が分担して作成した。前回の外部評価の結果を踏まえて話し合い、職員間で記録することの大切さの確認や地域との交流の積極化のために具体的な計画を立てて実践している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター、管理者、職員の参加のもとに定期的に開催している。事業所から報告し参加者の理解を得ることが主で、メンバーからの意見や要望が出る双方向の関係にはなっていない。前回の外部評価の結果をにより現在取り組んでいる内容についても報告した。		・外部評価への取り組みのモニター役を依頼する等、メンバーが双方向の関係になれるような工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・生活保護を受けている利用者についてケースワーカーと話し合いをしているが、行政の担当者との連携は今後の課題である。		・現場や利用者の課題解決のため区の担当窓口で事業所の実情を積極的に伝え、理解と協力を得ることが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・家族等来訪時に暮らしぶり、健康状態、金銭管理の報告を管理者が居室でしている。来訪されない家族等には一ヶ月に一回請求書と共に健康状態と金銭管理について報告している。家族等に行事の呼びかけをしているが参加は少ない。		・利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードを手紙や写真等で伝え、アンケート等家族等の要望を気長に求めていく働きかけが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置、苦情の窓口等機会がある度に、家族から意見、苦情、不満を出しやすい働きかけをしているが反応は少ない。		・上記に同じ
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動はほとんどない。利用者への影響を少なくするため、馴染みのある職員と新しい職員が一緒に行動して、利用者混乱なく受け入れてもらえるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者から研修案内の情報を提供して、パート職員も含め全職員が学べる機会を設けている。全職員が共有できるように昼時間を利用して研修報告を行っている。新人には先輩職員がバックアップし、体験の中から学べるように援助している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域包括支援センターとの意見交換会に参加している。また毎月法人内のグループホーム会議があり、連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用開始前に、利用者に見学に来てもらい、来られない人には職員が出向いて説明し、安心し、納得して利用できるよう支援している。本人のこれまでの生活歴を参考にして、馴染みややすい受け入れを工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・職員は利用者と一緒に行動しながら、利用者の新たな面に気づきその人の思いに共感することもある。職員が対応に困ると別の利用者が励ましてくれる等支え、支えられる関係ができています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・日々のかかわりの中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者の視点に立って、本人の内心の思いを汲み取る努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・本人の視点に立って、職員で話し合い、必要な場合は主治医からの助言を得て介護計画に反映している。</p>		<p>・家族等との話し合いが課題である。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・定期的、かつ必要に応じて見直しを行っている。管理者・職員の話し合いの中で、お互いの気づきを出し合い、見直しに結び付けている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・医療連携体制が取れている。主治医の助言等がケアプランに反映されるなど個々に必要に応じて支援している。		・今後もさらなる、臨機応変な支援を期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者の病歴を把握し、かかりつけ医との関係を活かしながら受診の支援を行っている。		・利用者や家族の希望に添ったかかりつけ医と連携を取り、家族に受診のための送り迎えをしてもらっている。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・終末期介護の経験はない。法人として「みどり介護に関する指針」の改定を検討している。		・終末期を事業所で迎えた利用者はいないが、「みどり介護に関する指針」の有効利用が期待される。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報保護法を遵守し、プライバシーの尊重や個人情報取り扱いに配慮している。		・利用者が不在でもドアをロックする等の気配りや、記録も、頭文字を使用するなど気をつけている。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の出来ること、出来ないことを把握し、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		・利用者の夜間の目覚めには、温かい飲み物を用意したり、早朝の場合は調理を手伝ってもらうなど、一人ひとりの生活のリズムに合わせることを大切にしよう配慮している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・キッチンで利用者と職員が一緒になって食事の支度をしている。また、食後の後片付けも利用者が自発的に楽しんで手伝い、明るい雰囲気である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴の曜日は、月・火が午前、木・金が午後として、時間の自由度を多くしている。利用者の希望に対応できるよう努めている。		・利用者は午前午後とも三人ずつ利用している。身体的にしっかりした人が多いので見守り介助である。午後は5時から7時の入浴時間で夜間入浴に近づいている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・玄関周りの季節の花々の手入れは利用者が受け持っている。生け花の資格を持つ人や、裁縫の上手な人もあり、それぞれの得意な分野で生活を楽しめるよう支援している。		・隣接している幼稚園との交流に取り組み、行事参加が楽しみとなっている。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・散歩、スーパーへの買い物など、利用者一人ひとり外出できるよう支援している。朝の散歩の途中喫茶店でモーニングコーヒーを楽しむ人もいる。花見や墓参など希望により行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・身体拘束しないことを職員は理解し、施錠はしていない。しかしセンサーによる見守りはされている。		・一人で外出した利用者があり、近所の人に送られて帰ってきた。近所への声掛けや、地域の見守りが出来つつある。施設の一層の努力に期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署との訓練は、年2回行われ連携はとれているが対策は十分ではない。		・民家を改装した2階建てで、非常口がない。災害の場合地域の協力が得られるような働きかけをして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者一人ひとりの状態を、血液検査の結果により医師に注意してもらっている。食事の量や栄養のバランスは、管理栄養士にチェックしてもらい、尿量検査で飲水量に配慮している。		・管理者が準看護師で医療連携も出来ており、健康管理には安心が得られている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・トイレは大きく表示し場所間違いのないよう気配りが出来ている。民家の改装なので、自宅で過ごしているような気の張らない雰囲気である。		・利用者は次第に身体状況が衰える恐れがある。2階への階段は傾斜がきつく、滑り止めをつけているが、布ロープの手摺等の設置の工夫が望ましい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、利用者の好みを活かした部屋作りがされていて、自分の居場所として過ごせるよう配慮されている。		